

171-0014東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

AA

日本ニューズレター No.117

第6回

AA

日本サービス

フォーラムを終えて

サービス・フォーラムが終わってからしばらく経ちました。その今は、やれやれやっと終わったか、というホッとした気持ちと、数少ないメンバーで行き届かないところも多かったでしょうが、感謝しながら帰ってくれた仲間に対してありがたいという気持ちとが混ざっている、という複雑な心持ちです。それでも私自身、やはり好きだからこういったことをしているんだ、という自覚はなおさら強くなりました。

北海道でも地域でのサービス・フォーラムを行っているそうです。九州でも、同じではないけれど似たようなフォーラムを行っていく予定があると聞いています。全国の仲間が各地の事情はあるのだらうけれど、同じサービスということで集まろうというイベントはこの「日本サービス・フォーラム」だけなのです。これまで全国5地域で行われ、今回は中四国での開催になりました。来年は関東甲信越で行われるということが決まっています。一人ひとりのメンバーが、サービスの経験を通じて得てきたもの — いいものも悪いものも含めて — それを分かち合おうというのがサービス・フォーラムの趣旨なのだとは私は理解しています。そして、それなりに役に立ってきたと思っています。

AAの中には「サービスの蜂に刺される」という言い方があるということを聞いています。そして、それは私にはびったり当てはまる言葉です。ところが、そうではないメンバーも大勢います。ほかに誰もやる人がいないから何とかしなくっちゃとやっているけど、というメンバー、または押しつけられてやるようになったけど、どうするのが正解なのかよく分からないままやっていて「これでいいのか？」と疑問を持つようになっていったメンバー。そうして、どのタイプであっても、サービスに関わるようになってくると、どうしても疑問を持つことが多くなるものです。ところが、なかなかそれを解消してくれるような場は存在しません。私は、サービス・フォーラムとは、サービスに関しての経験を分かち合うところ、というように単純にとらえています。



今回中四国で開催出来たサービス・フォーラムでは、曲がりなりにもその分かち合いが行えたのではないだろうか、と思っています。AAの中で習い覚えてきたように、人間には完璧というものは存在しません。サービスでも同じでしょう。でも、すぐに「こうあるべきだ」「こうしなければならない」という原則論が、特にサービスにおいては幅を利かせがちになるのです。

「地に足をつけたサービス」でありたいのに、どうすればそれが行えるのか、とみんな疑問を持ちながら何とかやっているのが実情でしょう。そういうときに、このサービス・フォーラムの中で自分の経験を、そしてみんなの経験を分かち合えたことはうれしいことでした。私自身、今回得ることができたもっとも大きなものは、「サービスの喜び」ということです。サービスには、確かに苦労するところが多いのですが、それに比例して喜びもあります。負債が資産に変わっていくAAの奇跡はここにもあったのです。この喜びは見つけにくいのは確かですが、見つけたときのうれしさは格別です。あきらめずにやり続けていけば、必ず見つかるものだ、と信じています。

確かに、きれい事だけではすみません。サービスに携わるメンバーは、どうしても一人で悩んだりしがちです。今回のサービス・フォーラムの開催にあたって、負担に押しつぶされそうになったメンバーがいたことも事実です。「しもべ」とは言いながらも、自分だけがなぜここまで苦労しなければならないんだ、と疑問を持ってしまうメンバーが多いということも知っています。けれど、そういうときに原点に戻ろうよ、と呼びかけることで「みんなで」その問題についてどうしたらいいのかを考える機会が与えられることが多い、というのも経験しています。サービスは一人だけのものではない、みんなのものなのです。ハンドブックの扉のところに書かれてあるとおり、「私の責任」なのです。それを「私たちの責任」に変えていこうではありませんか。

私たちは、一人ひとりがAAによって、AAが存在するから救われた、という経験の持ち主です。それを伝えていくのがメッセージであり、そのメッセージを効果的に伝えていく環境をどのように整えていくか、というのがサービスでしょう。私は、プログラムから与えられた「贈り物」の話をするのが好きです。サービスでも同じです。サービスを通じてどのような贈り物を与えられたかを分かち合っていくのがサービス・フォーラムでしょう。だからこそ、私はこのサービス・フォーラムがこれからも開かれていくことを望んでいるのです。来年の関東のあとは、立候補する地域があればサービス・フォーラムが開かれる、という形に変わると聞いています。開催されにくくはなるでしょうが、私自身は、来年のあととも引き続いてこの有意義な場が維持されていくことを望んでいます。

宇部グループ、マイク

国際協力献金のお願い

みなさん、6月10日がどういう日かご存じですか？「そんなのわかってますよ。AAの記念日でしょ。」いや、そうではなく、何をもってAAの記念日としたのか？ということです。

(私がビルだったらそうでしたが) 創始者ビルのワンディでもなければ、ビルが共同創始者となるボブとあのドラマチックな出会いをした日でもないのです。1935年6月10日はボブの恒久的なソプラエティーの始まった日なのです。それには私は少なからず驚きました。と同時にここにAAプログラムの原理を感じました。つまり自分がお酒を止めるだけでなく次の仲間にメッセージを手渡してこそプログラム、ただお酒を止めるだけでなく飲まないで生きる、つまり回復していったこそプログラムと言うことなのでしょう。

次の仲間に手渡すということに関して日本では今までの仲間の努力のおかげで多くの病院にメッセージが入るようになり、(その後、つながる、つながらないは別にして) お酒に問題のある人が以前よりずっと容易にAAプログラムを知ることができるようになりました。しかし世界を見渡すとAAプログラムの存在を知ることができないまま命を落とさねばならない仲間が今でも数多くいるのです。最低最悪の状態にたどり着いた私はAAのない時代、ない国に生まれてそのまま飲み続けていたら…ということは恐ろしすぎて想像すらしたくありません。

そのためAAでは世界にメッセージの輪を広げていくためにプログラムの比較的に発展した国がAAが始まったばかりの国の手助けをする「国と国との間のスポンサーシップ」という分かち合いがあります。日本はアジアではプログラムの発展した方であるとされ韓国、モンゴル、中国のスポンサーをしています。ここ何年もメンバー数はじり貧、おかげで人材難のため各地域で評議員のなり手がいない等、サービス機構も機能不全の日本が他の国のスポンサーなんかしてはかえって足を引っ張ってしまうだろうに、と私は正直思っていました。しかし先日、九州での30周年でモンゴルからの仲間のスピーチに大感動して以来、考えを大きく改めました。グループがマンネリ化していても新しい仲間が繋がると再活性化していくように、沈滞しているからこそ新しい国のスポンサーをさせて頂き、力を頂かねばならないのです。うまくいかなかったからこそ分かち合える体験が豊富にあるのです。

一方の回復ですが伝統1にありますように、それは「我々の共同体の一体性」にかかっています。AAはこの6月で71周年を迎える今日までのところ国/地域によってプログラムのやり方に時に驚くような違いがなきにしもあらずですが「本来の目的は飲まないで生きていくこと」という点では一体性を保つことができております。人類の歴史を顧みて他の団体がいかに高邁な理想を掲げているが内部対立や分裂をおこしてしまったり、時を経るうちに本来の原理から大きく外れた脱線をしてしまうことが多いのを考えれば奇跡です。これは12の伝統/12の概念、そしてハイヤーパワーに守られているだけでなく、5年ごとにAAの誕生を祝うインターナショナルコンベンション(次回は2010年にアメリカ合衆国テキサス州サンアントニオで75周年があります。)、2年に一度偶数年に世界各国が現況を分かち合うワールドサービスミーティング(以下、WSM。次は今年の10月に第19回がアイルランドで開催予定。)など、世界のメンバーが経験の分かち合いの場を設け、一体性を確認し続けてようとしている努力の成果だと言えるでしょう。

例えばバースディの際のメダルというものがAAのものではない、という今では当たり前の事が日本で知られるようになったのもWSMに評議員が出席したおかげであったそうです。このメダル問題を通して日本のAAはアルコールの回復に関わることであったとしてもAAの内部のことで外部のことは線引きを明確にさせなければならない、ということを学んだと思います。もしWSMのような軌道修正の機会がなく外部との線引きをあのままあいまいなままにしていって「これ位はいいだろう」をエスカレートさせてしまう性向を持っている私たちのことです、メダルはよくても何か他のことでおかしいことになっていたかもしれません。「単なる善は時に最善の最大の敵」なのです。

加えて我がアジア・オセアニアでは奇数年ごとに地域での分かち合いの場であるアジア・オセアニアサービスミーティング(以下、AOSM)を開いております。先日の全国評議会でも次回第7回が2007年7月に関東甲信越地域で開催され、日本のメンバーとの分かち合いの場を持つ、という付帯条項付きでの決議が満場一致でなされました。詳細についてはこれからですが、開催国としては会議室使用料などの負担がかかります。

「それきた、やっぱり献金のお願いか!」と思われるでしょう。清貧を旨とするAAで「献金、献金」と言って回るのは確におかしなことです。ビルも「AAにおける行動の原理は多くの時間と少しばかりのお金」と言いました。しかしサービス、こと国際協力に関しては少しばかりでなく、それなりのお金がかかってしまうことをご理解頂けたらと思います。例えばこのAOSMの場合、もちろん運営は極力切りつめますが、飛行機代はどうしてもかかってしまいます。会議の公用語は英語です。日本のメンバーが言葉の壁を越えてアジア・オセアニアからの仲間と分かち合うためには通訳のための経費も必要です。

また日本のようにメンバーが4,000名いる国でさえWSM/AOSMへの派遣に対して「どうしてそんなにお金を使うのだ。」という批判を耳にしますが、メンバー数のずっと少ない国のAAが仲間を海外へ派遣するとなると各グループの負担はずっと重くなります。加えて日本の物価は世界でも指折り高く、そこへ通貨価値が円に比較して低い国からやって来る仲間はさぞかし大変なことでしょう。つまりメンバーがよく飲む缶コーヒーも日本人には「ただの120円」なのかもしれませんが、その120円が平均の時給にすら値する国あるだろうということです。私は30周年の際と同様にスポンサーをさせて頂いている国々へできるだけ経済的支援をできたら、と希望しております。

ということで今年も国際協力献金をみなさまにお願いしたいと思います。AOSMがせっかく日本で開催されるわけですし、この献金を機会にメンバーの皆様の間で国際協力活動への関心が高まっていけば、とも願います。日頃よりJSOだけではなくセントラルオフィス、地域などに多大な貢献をして下さっている頂いているみなさまにさらなる献金をお願いするのは非常に心苦しくありますが、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます

WSM前期評議員 昌代

郵便振替口座 00140-7- 665844
加入者名 国際協力献金

通信欄にグループ名、個人名を明記してください。

地域の分かち合い

～ 中 四 国 地 域 ～

「HG (ホームグループ) ではぐくまれたもの」

3月に山口で開催された第7回全国サービスフォーラムの分科会の一つのテーマであるHG (ホームグループ) を益田G (グループ) で担当させていただき、その中でHGではぐくまれた大切なもの、また新たな発見をすることができました。

病院を退院したばかりの私には居場所がありませんでした。私を取り巻く環境や人に対しての恨みを引きずりながら「～しなければいけない」という考え方にしばられ、ちょっとしたことで飲んでしまうかもしれないという不安の中、唯一心が安まる場所がM会場で、日々の生活の逃げ場でした。しかし、どんな状況であっても暖かく迎えてくれる先行く仲間がいてくれ、この人達がアルコールに問題があってここにたどり着いたとは思えないほど凛とした姿と態度に私は強い衝撃を受けました。先行く仲間のようにになりたいと思いました。私はお酒は止められない、近いうちに必ず飲むだろうとも思っていました。しかし三年位たった頃には、飲まない自分の方が良いと思えるようになり、お酒の囚われから解放され、恨みが感謝に、「～しなければいけない」が出来る喜びに変わり、生きることが楽になっている自分をみつけることができました。何も解らないまま「第一のことは第一に」の思いでHGにしがみつき出席し続ける中で大きな財産を与えて貰っていることにも気づき始めました。HGで起こる色々なことすべてが自分の財産に変わることが信じられるようになり、時間と共に、社会生活の中でも同じように信じられるようになりました。そして定期的にHGのM会場に出続けることは回復、成長の為には必要不可欠なことだと仲間の生き方を通して教えられました。私はAAの中は宝の山だと思います。自分にとって不必要だと思っていたものでさえ宝に変わる不思議な場所です。その山の入り口がM会場であったりイベント会場じゃないかと思うのです。益田Gは人数は少ないですが週2回会場を開き、年1回オープンの形でイベントを行っています。一人では出来ないことがHGという和の中で実現しています。分科会を通して、「誰かがどこかで助けを求めたら必ずそこにAAの愛の手があるようにしたいそれが私の責任だ」その窓口がHGで、自分の為のHG出席が、その責任をも担っているんだ気づき嬉しく思いました。また、新しく来た仲間への対応の仕方や、HGの方針を話し合っておくこと、継続の重要性などHGの質の向上に目を向ける足がかりになったことを感謝しています。最後にこれはあくまで私の個人的感想ですが、HGを持たないでM会場を渡り歩くことで飲まないで生きることやある程度の回復は可能だと思いますが、成長したいと願うならHGは必要不可欠なものの一つだと思います。私の場合は益田Gに属しているというだけで安心感を与えて貰っています。HGの仲間とのふれあいによって色々なものを学ぶことも出来ます。私にとってHGは心の家族だと感じています。HGの一員として仲間と共に成長しつづけたいと願っています。

益田グループ

～ 東 北 地 域 ～

「アルコール以外の問題」

アルコール以外の問題を持つ3人の方との出会いが、私に思いがけない喜びを教えてくれた。そのことを書いてみたい。

関東の薬物の女性の仲間T子さん。クリーンを保ちながらAAのメンバーとよく一緒に活動していた。AAのイベントで彼女の出演する劇を見せてもらったこともあったし、中間施設主催のセミナーでは、彼女がいかにして職場で薬を使ったかの話に、人一倍お腹を抱えて笑わせてもらい、薬に囚われる苦しさそれから開放されていることの喜びを存分に分かち合ってもらった。1995年の秋、ある一泊のフェローシップで、そのT子さんと同室となった。何故そのような話になったのかは記憶にないが、「今までAAの中の大きな会議で書記などの役割をさせてきてもらっていたのに、昨年に突然？AAのメンバーでない私は役からははずされ、とても辛い思いをしたの。一時期は人に会うのも嫌になったけど、私のスポンサーは、『それはクリスマスプレゼントよ。』と笑って言うのよ。私はAAが大好きだから、AAの人達と活動したいの。」穏やかな笑顔でそう言った彼女は、翌日私達と一緒に地元の病院メッセージに参加し、会場ではお酒を飲まないで生きたい願望があると自己紹介をした。

翌年1996年秋頃、私達のグループに、パチンコ依存症の女性Hさんが参加するようになった。私達の街のAAは、中間施設があってAAが育ってきたような経過があったので、その頃はクローズドとオープンミーティングを分けてはいても、他のアディクションの方が会場に見えると、彼ら彼女らは他に行く所がないのだから・・・と、クローズドミーティングをオープンに切り替え、一緒にミーティングをしていくということをしていった。その女性は、AAのメンバーの話にとっても共感し、そして私達にもたくさん分かち合いをしてくれた。彼女がそこに居ることは違和感ではなく、私達の喜びであったと思う。しかし彼女の熱心な参加が続き、年が明けビジネスで役割交代の話が出る頃になると、私は唖然とした。彼女がこのままミーティングに参加し続けても、彼女にグループの役割をやらしてもらえないことは出来ないのだ。彼女は「パチンコをやらないで生きたい」と願って参加しているのだから。昨年のT子さんの話が甦る。自分自身とスポンサーシップの経験から、AAの中で役割を持つ事が、回復と成長にどれほど大切かを実感してきていたので、遅まきながらこの気づきは、私の大きな苦悩となった。2月、3月と彼女の足が止まる様子は全くない。正直な分かち合いの中で涙し、また屈託なく仲間と笑い合う彼女の姿を見るたび、私は彼女への申し訳なさでとても辛く、途方にくれた。今さら言えない。一緒にAAのプログラムをやっていくことが出来ないなんて。あの時期ほど、自分達、なにより自分自身の安易さを悔いたことはなかった。しかし突然それは訪れた。「ともさん、とても残念なのだけれど、主人の転勤で4月から関東圏に引っ越しをしなくてはならないの。」その時私は心の中で(けっして大袈裟でなく)『神さま!』とひざまずいた。帰り道は涙が出てしょうがなかった。Hさんのいない4月のビジネスミーティングでクローズドとオープンをきちんとすることを提案させてもらった。私に勇気をくれたのは、その年の3月に発行されたばかりのビル・Wの「アルコール以外の問題」のパンフレットだった。

《AAには応じられないことがいくつかある。AAのメンバーが個人的にどれほど思いやりの気持ちがあっても、どれほどやってあげたいという思いがあっても、出来ないことがある。

・・・中略・・・それでも一緒にと、こだわるとき、AAメンバーだけにでなく、かえって（薬物の人）に厳しい仕打ちをすることになるのだろう。》AAの創始者、私達の先人は既に同じような経験をしていたのだ。

そして2年後。1999年6月、パチンコ依存の男性TさんがAAのオープンミーティングに参加するようになり、半年後に地元でGA（ギャンブラーズ・アノニマス）グループを立ち上げた。そして、なんと！彼はAAのクローズドに参加できなかったことがグループ立ち上げの力になったと言うのだ。あれから数年、GAグループがいきいきと活動している様子やTさんの笑顔や穏やかさに出会うにつけ、胸が熱くなってくる。全く思いもかけない喜びと心の暖かさだ。

ここK市は素晴らしい関係者に恵まれたこともあり、東北ではS市について多くの自助グループが活動している。私自身もアルコール以外の問題の方々に出会うことも多い。特に女性は、自分の母や妹であり私自身かと思うほど、多くを分かち合って下さる。そうした暖かい思いが心に広がる程に、あのとても切なかった経験がくれたものを、より大切にしていかなければと思う。

東北 野呂

AAの中でのアノニミティについて

B類常任理事 小林

1、社会のなかでの個人情報とは？

私は、昨年10月末に医師から「糖尿病」の診断を下され、通院しなければならなくなった。

それから半年たったら、運動と薬と食事療法のおかげで体重は73kgから62kgまで減少した。それは良かったが、ズボンが全部ダブダブの状態になったので、ズボンを買いに行ったら、住所、氏名、生年月日、電話番号の記入を求められた。また、私は3月末に退職した。そしたら生命保険の解約など、数種類の書類に氏名などの個人情報を書くこととなってしまった。

私の個人情報は、こうしてあちこちに自分から知らせることになってしまった。

そうしたことを気にしているせいか、最近、自宅に来るダイレクトメールが増えているような気がします。

あまり気にしないで、「個人情報」を誰かに教えてしまっているなんて経験、皆さんはありませんか。

2、AAにおけるアノニミティについて

AAのなかでは、個人情報（プライバシー）を最大限尊重し、お互いに守りあうのが基本とされています。

そのことは当然の前提でわかっていると言いながら、AAミーティングの行き帰りに、メンバーの氏名などを大きな声で話していることはありませんか。

メンバーの名前を大声で言ってしまうと、気にかけているメンバーから、「アノニミティ違反だ」と言われたりして、個人関係だけでなく、グループの中までギクシャクしたりしたりなんてことないでしょうね。

「アノニミティ」とは、AAそのものを外部（AA以外）か

らの不当、不法な妨害等から守り、AAグループの存続性を保障させるための基本だとも思います。

お互いにメンバー関係を上手く継続させるために、メンバーのことをテーマにして、話の種にするのは控えるほうが適切だと思いますが、あなたはごどう思いますか？

3、アノニミティとプライバシーについて

他人に知られたくない個人情報（プライバシー）が話されても、聴いているメンバーはミーティング会場に置いて帰りましょうということも守って欲しい。

これが守られないということは、AAの中では基本的なルールが守られないことを意味しますし、守らなければ、そのAAミーティングは、次第に活力を失い、メンバーも近寄らなくなるでしょう。

AAミーティングでは、「自分の姓名を名乗ることも、連絡先を教えることも、一切明かさなないことも、その人の自由です。どこまで自分のプライバシーを明かすかは自分で決められる。」となっています。

皆さんのグループでは、アノニミティについてどのように理解しあえるようになっているのでしょうか。アノニミティについて、グループの中で、年に何回か定期的にビジネスミーティング等で話し合われていますか？

最近、飲まない期間の長いメンバーに、アノニミティについて話をしたら「アノニミティという言葉が久しぶりに聞いた」と言われました。

AAのミーティング・ハンドブックには、アノニミティについて掲載されていますので、もし話し合っていなかったりした場合には、あなたのグループにお願いしたい。

「アノニミティをテーマとして、AAミーティングをやって見てはいただけないでしょうか？」

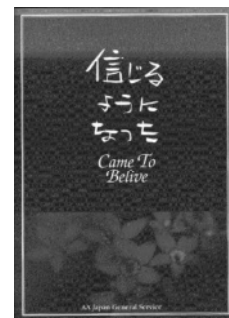


☆「信じるようになった」

Came To Believe

スピリチュアル（霊的）な冒険
—AAメンバーたちの回復の旅路—
どのようにして、世界のAAメンバーたちはAAの原理と「自分なりに理解している神」を信じるようになったか。宗教的、神学的な教義に縛られていないAAのスピリチュアルなプログラムについての、世界の仲間の経験と知恵の分かち合い。新装丁版 ￥2100

「信じるようになった」には、“自分で理解した神”についての実に多種多様な信念が発表されています。ここにおさめられた原稿の大部分は、ゼネラルサービス・オフィスの呼びかけにこたえて寄せられたものです。各項の最後に、寄稿してくださった方の住む地名を記したのでどれだけの広い地域から原稿が寄せられたかがわかりいただけるでしょう。ここに活字になっているものも、なっていないものも含めて、スピリチュアルな旅路の経験をつづってくれたみなさんに、AAのすべての仲間から感謝をお贈りいたします。たくさんの幅広い考えや見方が寄せられたおかげでここに代表的なものを精選することができたのです



AA日本ニューズレターNo. 117

編集・発行：NPO法人 AA日本ゼネラルサービス（J S O）〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4 F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ：<http://www.aajapan.org>